

地産地消の取組事例

概要

運営主体	富士宮市（フードバレー構想） （第4次富士宮市総合計画、平成18年～27年度） （代表 小室 直義市長）
設立年次	平成16年
会員数	全市民参加
活動範囲	富士宮市

富士宮市総合計画（フードバレー構想・食を通じた市民の健康と幸せづくり）：アメリカのコンピューター産業の集積地「シリコンバレー」が世界にコンピューター技術を発信したように、富士宮市は、特色のある食材が集まる集積地「フードバレー」として、日本の食文化、食産業を情報発信していくという構想に基づき、将来のあるべき都市像実現のための諸施策の実施に当って、「食」をキーワードとして、総合的・横断的に推進するとともに、民・産・学・官がそれぞれの役割を分担しながら、協働して取り組んでいる。

取組内容

【生産者と消費者の交流】

活動主体	フードバレー推進協議会 （代表 増田 恭子）
構成員	事業者団体 10団体 消費者団体他 5団体・2個人
活動範囲	富士宮市



「子供と楽しむ食育祭」で挨拶する
小室 直義市長

事項	取組の概要・効果・今後の取組
概要	<p>フードバレー推進協議会では、主に以下の取組を実施。</p> <p>休耕田を利用した自然農法（農薬や化学肥料を使用せず自然の生態系に沿った栽培を行い、良品質で収量の上がる方策及び休耕田の活用策を探ることを目的としている）による稲作実験事業</p> <p>静岡大学中井弘和名誉教授の指導により、西富士中学校の生徒148人が協力して、田植え、管理、収穫に係る一連の実験を実施した。</p> <p>「フードバレー推進月間」の創設</p> <p>毎年6月を「フードバレー推進月間」と定めフードバレー構想の推進強化を図った。50を超える地域団体・組織が、独自の活動（産業祭、食育講座開催、キャンペーン実施等）に取り組んで、市内外の多くの消費者との交流が促進された。</p> <p>取組の一事例としては、</p> <p>「駿州大宮逸品会」（会員（14事業者）が生産する農林水産物及び加工食品を持ち寄ったミニ産業祭、県内外から約4,000人が来場）、「子どもと楽しむ食育まつり」の開催などを実施。</p> <p>「NEWマザー健全食生活推進事業」の開催</p> <p>7月から市内の6か所の幼稚園で、それぞれ就学前の子供を育てる母親を対象に、食生活習慣の見直しについて学習会を実施した。</p> <p>その他食育の推進として、以下の取組を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「食育大学講座：フードバレー食の大学」（管理栄養士など38名を対象に、食育講座を10回実施） ・地食健身食育推進事業（小学生と保護者を対象とした、食育出前講座） ・食のまちづくり交流宣言都市交流事業（「食のまちづくり交流宣言」を交わした福井県小浜市との交流活動） ・「フードバレー展“人と心の交流富士宮食の駅”」（東京農業大学キャンパスにおいて、28の会社・団体と協力して、都市地域の消費者と交流） ・食の講演会（市役所において、食に関する講演会を実施） ・食育かるたの作成・普及（公募による食育カルタづくりの実施）
効果	<p>休耕田を利用した自然農法による稲作実験では、生徒に対して食育を図ることができ、さらに、生徒達と地域の農家との交流も図られた。</p> <p>「NEWマザー健全食生活推進事業」では、幼児を抱える市内各地域の母親113名に対して、食の大切さと地食健身の考えを十分伝えることができた。</p> <p>地食健身食育推進では、市内7小学校において食育講座を開催し220名の親子に対して、食による健康増進の考え方を浸透できた。</p>
今後の取組	<p>フードバレー推進事業が始まって3年が経過し、同協議会の推進体制が概ね整ったことから、今後は、市内外の消費者や団体と連携を強めて、平成18年度に実施した事業をさらに充実した内容へと発展させる予定。</p>

【直売所等における地場農産物の利用促進】

活動主体	J A 富士宮 (代表 渡邊 文雄)
構 成 員	J A 及び 9 基幹支店 生産者グループ 7 団体
活動範囲	富士宮市、芝川町



富士宮市農業祭「富士山アグリフェスタ」会場の様子

事項	取組の概要・効果・今後の取組
概 要	<p>J A 富士宮では、9 か所の基幹支店において、曜日を決めた朝市・夕市を定期開催し、地場農産物の消費拡大を図っている。また、年に一度、支店毎に農業祭を開催して、特産品の P R ・販売を推進している。</p> <p>J A 富士宮では、富士宮市とともに年に一度、市全体の農業祭を企画しており、また、1.6ha の J A 直営農場で特産品の「生らっかせい」などを生産して支店の農業祭へ供給するなど、地場農産物の生産及び消費拡大の指導を積極的に行っている。</p> <p>J A 富士宮では、地域特産の作物のうち茶、米、生らっかせいを基幹作物に掲げ、個々に独自のトレードマークを定めて、共販及び販売促進を積極的に図っている。</p> <p>富士宮市では、J A 以外にも、農家が任意に団体を形成して、常設の産直売店を設置している。</p>
効 果	<p>同 J A 管内は、農業地域と住宅地域が混在しており、鮮度が高く農家の顔が見える産直売店の農作物は、消費者に大変好評で、地場産のコシヒカリや特産生らっかせいなど、一般的にあまり流通されていない物も入手できるなど、この取組を通じて消費者に対して地場農産物の浸透が図られている。</p> <p>直売所では、地場農産物が新鮮で価格が比較的安く、さらに、常設で商品の供給も潤沢であることから、近隣の消費者に好評で地場農産物の消費拡大につながっている。</p>
今後の取組	<p>J A 富士宮では、茶、米、生らっかせいの特産物を柱に、地場農産物の生産・消費拡大を目指して、ファーマーズマーケットを含む「フードバレーセンター」の建設を予定している。</p>

【学校・福祉施設等における地場農産物の利用促進】

活動主体	富士宮市立学校給食センター
構成員	栄養士 3名
活動範囲	富士宮市内（小学校19校、中学校11校、約11,900食/日）



小学校の食育出前講座を行う
給食センター栄養士

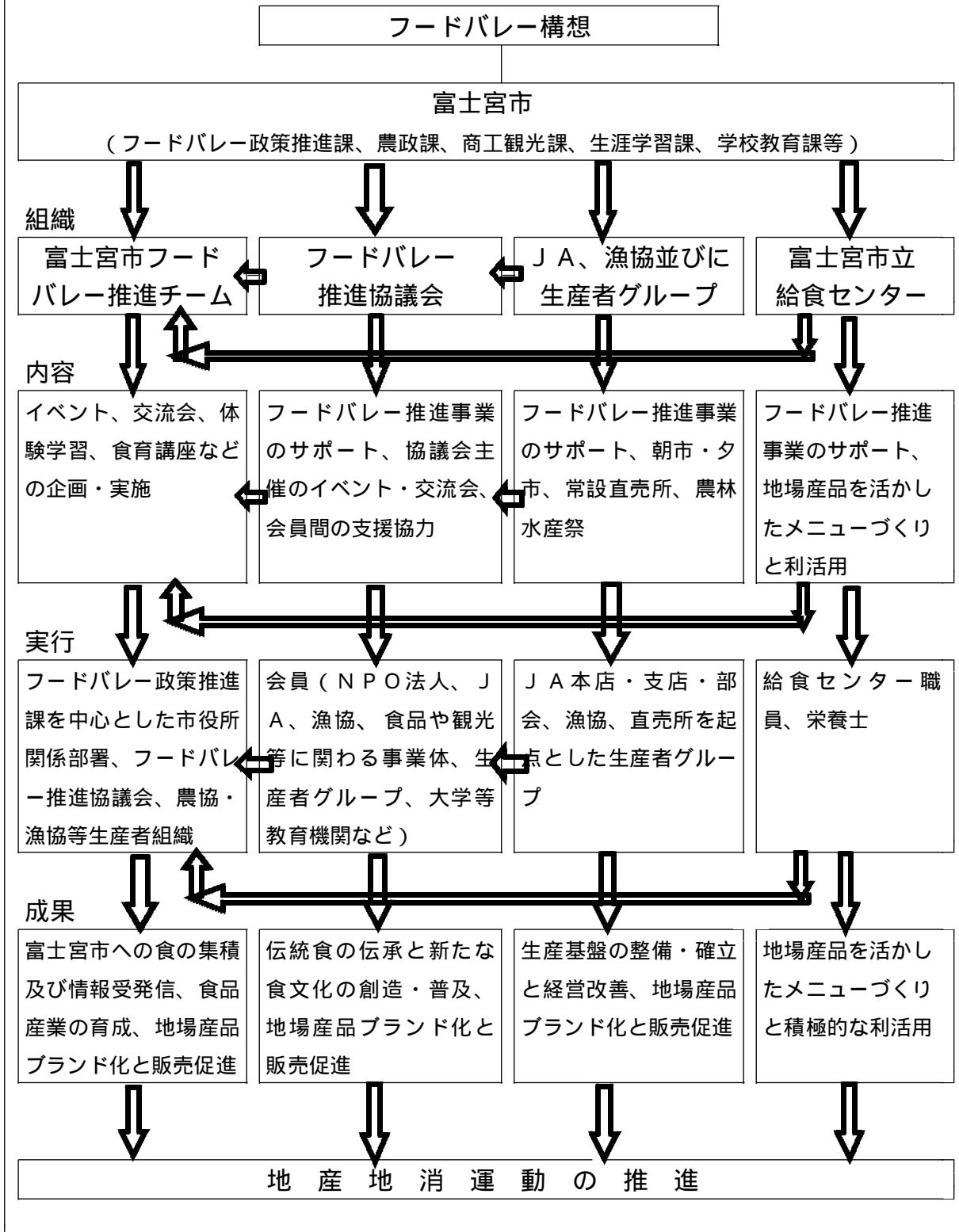
事項	取組の概要・効果・今後の取組
概要	<p>富士宮市立学校給食センターでは、フードバレー推進事業の下、地場農産物を活かした給食の献立づくりを進め、地場農産物の学校給食への使用割合増大を図っている。</p> <p>栄養士が市内7小学校（18年度）において、地食健身食育推進事業による児童と保護者を対象とした食育出前講座の講師を務めており、フードバレー構想で推進している地食健身の普及を図っている。</p>
効果	<p>学校給食に地場農産物が多く取り上げられることで、生産者の生産意欲向上につながっている。また、子ども達にとっても地場産の食材や農業への理解につながっている。</p> <p>食育出前講座では、地食健身の普及に大きな効果が上がっている。</p>
今後の取組	同給食センターでは、地場農産物を利用したメニューを開発するとともに、子ども達に対する食育をさらに強化する。

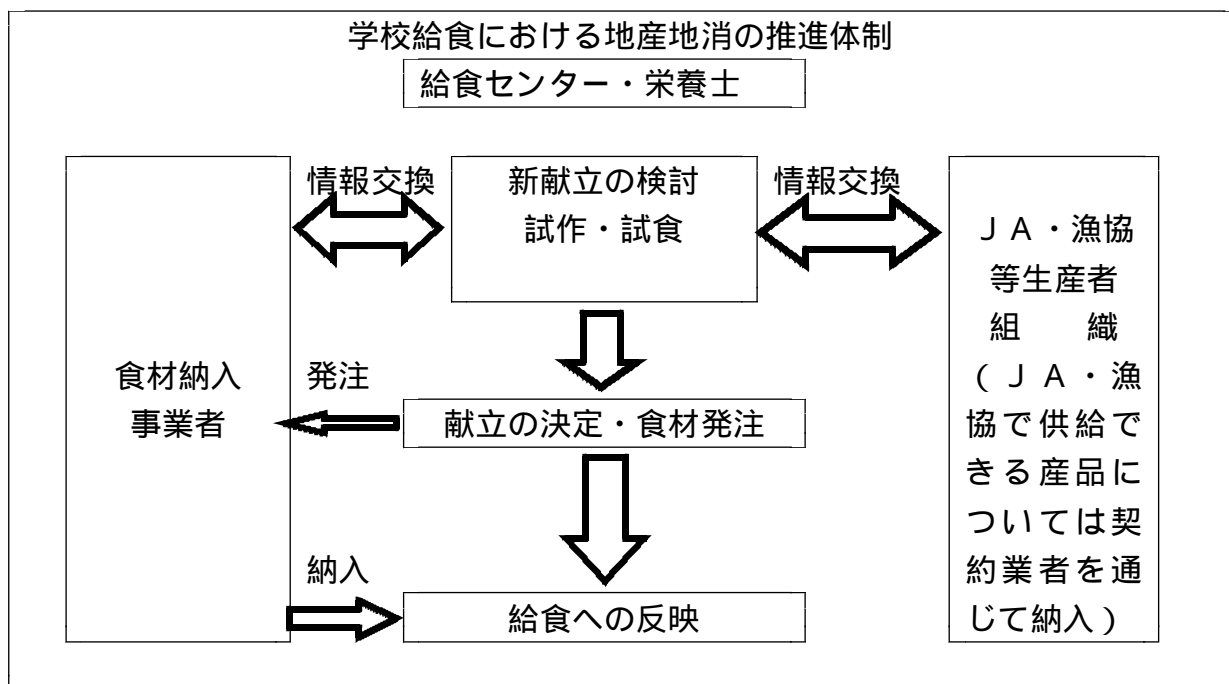
資料編

(1) 地産地消の取組体制（体系図）



富士宮市における地産地消推進計画に関わる活動の推進体制





(2) 地産地消の実績 (グラフ又は統計表)

富士宮市フードバレー推進事業の実績

実績評価区分		15年度	16年度	17年度	27年度(目標)
農業産出額(1000万円)		1,083	1,124	1,150	1,125
観光客(万人)		451	558	523	612
健康寿命(歳)	男	74.91	75.08	...	76
	女	80.00	80.10	...	81

注：健康寿命は、切明義孝氏による介護保険データを利用したものである。

情報収集官署名：静岡農政事務所 沼津統計・情報センター
(電) 055 - 933 - 5821